

2022年2月28日

報道機関 各位

江戸時代の感染症（天然痘）との闘いを振り返る ～長崎・天草地方の「疱瘡墓」調査に関する報告会を開催～

3月5日（土）長崎大学多文化社会学部と長崎県考古学会の共催により、近年の「疱瘡墓」に関する研究報告会を開催いたします。

「疱瘡墓」とは、江戸時代の天然痘（疱瘡）との闘いを物語る遺跡です。かつて大村藩などでは、天然痘に罹患すれば人里離れた奥深い山中に隔離され、病死後もまた社会と隔離されたまま埋葬されました。その墓が「疱瘡墓」です。

今回の報告会では、「疱瘡墓」を通して、江戸時代の感染症対策やそれに伴う排除と隔離について考えます。新型コロナウイルスの感染拡大の脅威を肌身で知る今だからこそ、江戸時代の感染対策も現実感をもって理解することができると考えています。また、現代の感染症対策が後世においてどのような歴史的評価を受けるのか考えながら、江戸時代の天然痘との闘いを振り返ります。

取材については、オンライン上での実施を想定しています。取材いただける際は、下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

【開催日時】2022年3月5日（土）13:00～17:30（Zoomを使用したオンライン開催）

【スケジュール】

- 13:00 ～ 13:10 趣旨説明
- 13:10 ～ 14:00 基調講演：疫病と石造物（弘前大学人文社会科学部・関根達人）
- 14:00 ～ 14:25 墓と陶磁器（波佐見町歴史文化交流館・中野雄二）
- 14:25 ～ 14:40 （休憩）
- 14:40 ～ 15:10 長崎・天草地方の疱瘡関連石造物（長崎大学大学院多文化社会学研究科・賈文夢）
- 15:10 ～ 15:30 長崎県波佐見町の疱瘡墓の分布について（長崎大学多文化社会学部・野上建紀）
- 15:30 ～ 15:55 大村市雄ヶ原黒岩墓地の疱瘡墓（富松神社・久田松和則）
- 15:55 ～ 16:10 （休憩）
- 16:10 ～ 16:35 文献史料からみた疱瘡（波佐見町歴史文化交流館・盛山隆行）
- 16:35 ～ 17:00 野崎島・沖ノ神嶋神社の疱瘡祈禱（小値賀町教育委員会・平田賢明）
- 17:00 ～ 17:25 天草の疱瘡対策（天草市文化課・中山圭）

※今回の研究は、多文化社会学部の研究シーズ育成事業の一環として実施されたものです。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学多文化社会学部 野上研究室

メール：kenkyukai.nagasaki@gmail.com

感染症

2021 年度多文化社会学部研究シーズ育成事業
「近世『疱瘡墓』に関する基礎的研究」報告会

共催
長崎県考古学会

と

考

古

学

—長崎・天草地方の疱瘡墓をめぐって—

基調講演：疫病と石造物

(弘前大学人文社会科学部・関根達人)

大村市雄ヶ原黒岩墓地の疱瘡墓

(富松神社・久田松和則)

墓と陶磁器 (波佐見町歴史文化交流館・中野雄二)

文献史料からみた疱瘡

(波佐見町歴史文化交流館・盛山隆行)

長崎・天草地方の疱瘡関連石造物

(長崎大学大学院多文化社会学研究科・賈文夢)

野崎島・沖ノ神嶋神社の疱瘡退散祈禱

(小値賀町教育委員会・平田賢明)

長崎県波佐見町の疱瘡墓の分布について

(長崎大学多文化社会学部・野上建紀)

天草の疱瘡対策 (天草市文化課・中山圭)

日時：2022年3月5日 13:00～17:30
(Zoomを使用したオンライン開催)

参加ご希望の方は、下記の問い合わせ先、または右のQRコードよりお申し込みください。後日、ZoomのURL等をお知らせします。



主催・問い合わせ先：

長崎大学多文化社会学部 野上研究室

kenkyukai.nagasaki@gmail.com



1. テーマ：「感染症と考古学—長崎・天草地方の疱瘡墓をめぐって—」

2. 日時：2022年3月5日 13:00～17:30

3. 方法：Zoomによるオンライン方式

(参加ご希望の方は、下記の問い合わせ先、または右のQRコードよりお申し込みください。)

4. 共催：長崎県考古学会・長崎大学多文化社会学部

5. 趣旨：

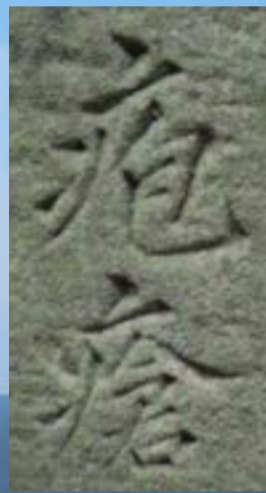
人と人の交流がもたらしたものは人類にとって都合のよいものばかりではなく、また目に見えるものだけでもなかった。人類の生命や生活を脅かす病原のウイルスや細菌もその一つである。天然痘やペストは陸のシルクロードをたどり、梅毒などは海の道を渡ったという。現在、世界中で流行している新型コロナウイルスもまた空の道を使って広まっている。人類が手に入れた高度な移動手段はそのままウイルスや細菌の手に渡るのである。

深刻な被害をもたらす疫病の一つであった天然痘は、WHO（世界保健機関）が1980年に世界根絶宣言を行なったが、種痘が普及する前は、その感染力の強さ、致死率の高さによって特に恐れられていた。当時の天然痘の感染対策の中には呪術的で非科学的なものも少なくなかったが、現在の疫病対策と同じく有効なものもあった。その一つが徹底した隔離政策である。とりわけ大村藩などの隔離政策は苛烈であり、天然痘ウイルスに感染し、発症すると人里離れた山中などに隔離され、そして、死後もまた隔離され、人里離れた場所に墓が築かれた。それがいわゆる「疱瘡墓」である。

近年、いくつかの「疱瘡墓」の調査が行われた。今回、これらの「疱瘡墓」の調査成果から当時の疫病との関わり方を考えてみたい。



五島市江ノ浦墓地



波佐見町白岳墓地



五島市南河原墓地



波佐見町葉山墓地



天草市貢山墓地

6. スケジュール（予定）：

- 13:00～13:10 趣旨説明
 - 13:10～14:00 基調講演：疫病と石造物（弘前大学人文社会科学部・関根達人）
 - 14:00～14:25 墓と陶磁器（波佐見町歴史文化交流館・中野雄二）
 - 14:25～14:40 （休憩）
 - 14:40～15:10 長崎・天草地方の疱瘡関連石造物（長崎大学大学院多文化社会学研究科・賈文夢）
 - 15:10～15:30 長崎県波佐見町の疱瘡墓の分布について（長崎大学多文化社会学部・野上建紀）
 - 15:30～15:55 大村市雄ヶ原黒岩墓地の疱瘡墓（富松神社・久田松和則）
 - 15:55～16:10 （休憩）
 - 16:10～16:35 文献史料からみた疱瘡（波佐見町歴史文化交流館・盛山隆行）
 - 16:35～17:00 野崎島・沖ノ神嶋神社の疱瘡祈禱（小値賀町教育委員会・平田賢明）
 - 17:00～17:25 天草の疱瘡対策（天草市文化課・中山圭）
- 閉会

7. 主催・問い合わせ先：

野上建紀・賈文夢・石橋春奈（長崎大学多文化社会学部）kenkyukai.nagasaki@gmail.com